

(別添3)

【宮若市】
校務DX計画

令和5年3月に「GIGAスクール構想の下での校務DXについて～教職員の働きやすさと教育活動の一層の高度化を目指して～」が文部科学省より公表され、児童生徒の1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークの一体的な整備が進められる中、ICTを「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実に必要不可欠なツールであるとともに、教師の長時間勤務を解消し、学校の働き方改革を実現する上でも極めて大きな役割を果たしうるものと位置付けられている。本市でも教職員の長時間勤務や業務負担の軽減を図るため、教職員の働き方改革の検討は急務となっており、校務のDX化を実施し、教職員の働き方改革を促進していきたい。

1. 1人1台端末をはじめとするICT環境によって実現を目指す学びの姿

校務DXの推進に向けて、GIGAスクール運営支援センターを配置し業務支援体制を整え、教職員のICTの知識の向上や業務の効率化を推進する。

教職員の会議については、配布しているタブレット端末やファイル共有ソフト等を利用し、ペーパーレス化を促進していく。

教職員の研修についてはオンライン研修の利用など、集合型にとらわれない研修を実施していく。

2. 校務系及び学習系ネットワークの統合

令和2年度にGIGAスクール構想により整備された教師用学習用端末と校務用端末を令和8年度以降に1本化し、学習用と校務用端末切り替えることなく業務することを可能とする。また校務用端末が職員室に固定されている状態から、クラウド化に移行し、校内Wi-Fiネットワーク等の利用により場所に捕らわれない執務環境を実現する。セキュリティ担保の問題には、端末資産管理やセキュリティソフトを導入することにより、執務室外での校務の実施におけるセキュリティを担保する。

3. 次世代校務支援システムの導入について

福岡県ではふくおか電子自治体協議会において次世代の校務支援システムの協議・テスト等を実施しており、令和7年度より利用が開始される。

本市は令和8年度に現在のオンプレミス型校務支援システムから次世代のクラウド型校務支援システムに切り替えることにより、校務の平準化を図り、校務の効率化を推進する。

4. 保護者連絡・出欠連絡ツールについて

本市では、学校よりの緊急・一般連絡、または保護者よりの出欠の連絡等の電子化を図り、電話対応の削減や出欠状況の把握等に役立てており、業務負担の軽減につながっている。令和7年度以降も、デジタル化を推進し、積極的な利用を促す。

5. AI 型採点ソフトの利用

紙のテストの採点業務は教員にとって負担の大きい業務となっている。本市は令和6年度より、中学校に於いてAIによる採点システムを導入しており、採点業務の効率化を図っている。導入効果は1クラスの採点作業が30分～40分程度に短縮され、半減されることが明らかになっているため、令和7年度以降も継続して利用するよう計画している。